

# 徳山谷の歴史

## 領主・徳山氏の軌跡

世紀	年	できごと	領主
14世紀	1330頃	徳山貞信 新田氏に付いて軍功をあげる	貞信
	1338	新田義貞死去（樋原にて戦死との伝説が徳山村に伝わる） 足利尊氏 室町幕府を開く	
	1340頃	徳山貞信 徳山谷での地歩を固める	
	1391	徳山貞幸（貞信の子） 京都で討死 後に貞信は土岐政長を婿に迎える（政長は貞長と改名）	
	1392	南北朝合一	
15世紀	1431	徳山出羽守常長より縫殿助への山銭渡状あり	貞長
	1434	徳山貞長の御服料譲状・所領私状あり	
	1436	出羽守貞長の下人等渡状・百姓等渡状あり	
	1467	応仁の乱（～1477）	貞次
	1472	徳山貞次の田地交換状あり	
	1477	徳山貞次の仮銭請取状あり	
	1495頃	徳山貞輔が牛洞・井深を所領とする	
16世紀	1520	徳山貞隆は土岐氏に属し深坂地頭となる	貞隆
	1544	朝倉氏が美濃に攻め入り、徳山貞隆は赤坂で斎藤勢を破る	
	1570	朝倉義景 徳山谷を經由して赤坂・垂井に攻め込む	
	1572	稲葉一鉄 坂内村の広瀬城を攻める	
	1573	<b>室町幕府滅亡</b> 西光寺（本巣市）の正悟が木ノ芽峠で織田信長勢に敗れ、徳山谷へ逃れる	
	1576	徳山則秀 御幸城主となる	則秀
	1577	徳山則秀 松任城主となる	
	1582	<b>本能寺の変</b>	
	1583	<b>賤ヶ岳の戦い</b> 小松城主・徳山則秀は近江の柳ヶ瀬の戦いに敗れ菅並村・洞寿院に逃れる	
	1600	<b>関ヶ原の戦い</b> 徳山則秀 徳川家康より旧地五千石を拝領する	

この頃、徳山城を築城か？  
（徳山陣屋跡より北北西へ約600mの山頂に築城）

南北朝期に、徳山貞信は徳山谷での地歩を固めたとされ、美濃の土岐氏から婿（後の貞長）を迎えます。貞長とその子（貞次）は徳山谷に居を構えて領主として活躍していたと考えられ、貞次没後の貞輔は朝倉氏に仕えました。貞輔没後の貞隆は土岐氏に属し、斎藤利長により深坂地頭を与えられます。この頃には徳山陣屋跡の背後山頂に徳山城が築かれたとみられ、徳山谷は戦火に見舞われますが、やがて則秀は徳川家康に仕え、関ヶ原の戦い後に五千石を与えられて、更木（各務原市）に陣屋、徳山谷には代官屋敷を置き、実質的に本郷地区の庄屋が村政を担いました。